

# 医師が教える「美・健康ナビ」

医師による美と健康に役立つアドバイス「美・健康ナビ」を毎月1回、シリーズで連載しています。

第36回

夏に多い皮膚疾患「粉瘤」

自己判断は危険 早めに受診を

蒸し暑い日が続き、肌トラブルに悩む人も多いのではないのでしょうか。汗を多くかいたのに不潔にしていると、マラセチアなど皮膚の常在菌が繁殖し、脂漏性皮膚炎、とびひ（伝染性膿痂疹）、おできなどができやすくなります。今回はこれら夏に多い皮膚疾患の一つ、「粉瘤（アテローム）」についてお話します。

粉瘤は良性の皮膚腫瘍で、皮膚の下に袋ができ、その中に新陳代謝ではがれ落ちたあかや皮脂がたまってこぶ状になる疾患です。はじめは吹き出物のように小さくてもだんだん大きくなり、炎症が起こると痛みや熱感がでてさらに大きく腫れることもあります。

治療は手術で袋ごと取り除き、炎症がひどければ抗生物質を投与します。中にたまった老廃物を自分で無理やり絞り出すのは厳禁です。2次感染を起こし悪化を招くおそれがありますし、袋が残っている限り再発します。初期ではニキビなどと区別がつきにくく、自己判断は危険です。皮膚を清潔に保ち、悪化する前に医師の診断を受けましょう。



こうしょう  
木下 孝昭先生

医療法人社団 孝昭クリニック院長  
医学博士